

ドリーム剣友会創立十周年記念誌 写真集

ドリーム剣友会
創立十周年記念誌

剣心

戸塚区剣道連盟

ドリーム剣友会

昭和62年5月

お祝いのことば



戸塚区剣道連盟

会長 長野 敏 三

ドリーム剣友会が創立10周年を迎えられ心からお祝いを申し上げます。

創立以来今日まで、戸塚区剣道連盟と共に、順調に育ち発展を遂げて来られましたことは誠に嬉しいことでもあります。しかし乍ら、この10年間はドリーム剣友会にとっては、必ずしも平坦な道ばかりではなかったこととご推察申し上げます。しかし、役員の方々をはじめ、関係者の皆様方が初期の目的達成のため、献身的な努力によって、今日の記念すべき佳き日を迎えられましたことに対し、深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

ご存知の通り、戸塚区も日本経済の成長に伴い、人口の急増と共に、私共の生活環境は大変便利になって参りました。そのため、私共の日常生活は身体を使う事が少くなり、運動不足になりがちでありますので、何等かの形でスポーツを通じ、健康保持に努力される人々が非常に多くなりました。

そのため、戸塚区の剣道人口も増加の一途をたどって参りました。申すまでもありませんが、剣道は心身の鍛練と稽古することによって身体が強健になり、礼儀正しく、集中力、精神力等が養われて参ります。

今、日本は経済で栄えて魂で亡びると言われております。そういう時代の中で、次代の日を背負っていく、青少年の健全な育成と健全なる社会を造るため、今後、関係者皆様方の一層のご精進を頂き、ドリーム剣友会がこの10周年記念をステップ台に、更に30年、50年に向って益々のご隆昌と関係者皆様方のご健勝を祈念してお祝いのことばといたします。



創立一周年記念大会 (53.7.9)



創立一周年記念大会
(53.7.9)



大正同好会の夏季大会へ出場 (53.8.6)



ハイキング（湘南平）（ 54.3.21 ）



夏期合宿（鎌倉：光明寺）（ 54.8.18～20 ）



夏期合宿（鎌倉：光明寺）（ 54.8.18～20 ）



夏期合宿（鎌倉：光明寺）（54. 8. 18～20）



創立二周年記念大会（54. 10. 14）



夏期合宿（54. 8. 18～20）



創立二周年記念大会（54.10.14）



第9回戸塚区少年剣道大会（深谷台小）（55.6.1）



創立四周年記念大会 (56.6.7)



創立四周年大会 (56.6.7)



第25回戸塚区民剣道大会 (56.10.25)



大池公園へハイキング（57.5.9）



創立五周年記念大会（57.5.23）



創立五周年記念大会 (57. 5. 23)



廣取山へハイキング (58. 5. 8)



創立六周年記念大会 (58. 5. 22)
(中央は中村伊三郎先生)



夏期合宿の稽古（58.8.21）



夏期合宿の食事（58.8.21）



夏期合宿（野辺山）（58.8.20）



湘南平へハイキング (58. 10. 9)



ハイキング (南戸塚プール前) (59. 5. 6)



納会で読書感想文発表（58.12.18）



新入会式（59.4.3）



春の初心者稽古（59.4.15）



日本剣道形の稽古（59.6.6）



飯島道場第10回大会女子の部準優勝（59.6.24）



創立七周年記念大会 (59. 6. 17)



初心者種古でのスイカ割り (59. 7. 29)



夏期合宿で八ヶ岳を背に (60. 8. 3)



創立八周年記念大会 (60.5.26)
 (中央は森島健男先生)



ハイキング(鎌倉:建長寺) (60.10.13)



三浦国際市民マラソン 10キロの部完走 (61.2.11)



初心者の日曜稽古 (61.7.20)



日曜稽古 (61.7.20)



納会・冬季大会で基本動作 (61.12.21)



冬季大会（納会）で師範の訓評を聞く会員（61.12.21）



創立十周年記念誌を執筆，編集中の師範（61.9.23）

創立十周年を迎えて



ドリーム剣友会会長

ドリーム剣友会後援会会長 寒河江 清

当会が北村前会長はじめ諸先生方、御父兄の皆様により創立されたのは昭和52年のことでありました。そして本年創立十周年を迎えることが出来たのは、この間当会存続のため日頃から指導にあたられた、小島師範、日吉師範代はじめ諸先生方、そして縁の下の力持ちとして運営にあたられた、後援会の皆様方の御苦勞の賜と感謝する次第です。

この十年、育ち、飛び立っていった会員も数十名、最年長者は大学生、社会人になっていることであろうと思います。同時に後援者の御父兄の中からも剣道を始められ、既に数名の有段者を生みだしてきました。

又、毎回の記念大会等、各種の行事に当たりましては、戸塚区剣道連盟の諸先生方はじめ、地域の皆様の御協力があり盛大にして厳粛な行事が開かれてまいりました。

特に、六周年記念大会には範士八段、中村伊三郎先生（皇宮警察名誉師範）、八周年記念大会には、範師八段、森島健男先生（警視庁名誉師範）の御來臨の栄を賜りました。

このことは、当会にとりまして誠に名誉なことと存じ、感謝に堪えません。

今後はこれらのことを礎とし、当会の一層の繁栄を図るとともに、会員諸君は剣道の技と心を研鑽し努力することを望みます。

最後になりましたが、関係諸先生方、後援会会員の皆様の御健康と、御家族の御繁栄を祈念致しまして挨拶にかえさせていただきます。

十年を顧みて



ドリーム剣友会師範

錬士六段 小島 甲子治

ドリーム剣友会が発足して今日に至るまでのさまざまな思い出を振り返り、今

後の会発展に役立てたいと思います。

昭和52年4月14日にドリームハイツ剣道同好会は、大正剣道同好会から指導者と一部会員を継承して発展的に発足いたしました。

昭和48年11月発足の大正剣道同好会には、ドリームハイツから通う子供達が21名もいたことから、当時世話人をやっていた黒川容子さんが中心になり、「ドリームハイツにも道場を……」ということで、菅谷師範や川辺会長に相談したようです。

当初は、大正剣道同好会と同様に、子供会運営の会を考えていたようですが、県ハイツの子供会が、まだそこに加入していなかったこともあり、結局のところ、後援会を組織して運営することになった次第です。

発足前には県集会所に何回か集まり、指導者のこと、会員のこと、道場のこと等等が話し合われました。

その後、初代の会長に北村至氏、副会長に黒川容子女史が選出され、指導陣には、師範に菅谷三四吉、助教に私の他、須賀孝、日吉陽一、山川耕一の各氏が当たることになりました。

県集会所の床は、コンクリートに塩化ビニール樹脂を貼ってあるだけのものですから、危険だったことと、狭い場所に86名もの会員でござったがえしていましたが、思い切って稽古ができませんでしたが、予算が無いということで実費も出なかった中を、週二回（木・土）の稽古にバスを利用してまで来てくれる熱心な先生もいて、創立当時の熱気が感じられました。

指導者は、大正剣道同好会でも週二回（火・日）の稽古をしていたので、この4月から週4回となり、かなりの時間を剣道に費やすことになった訳です。

一方、後援会の役員も、大正剣道同好会時代と違って、自らがやらなければならない仕事が沢山でき、そのために、指導者も後援会役員も徐々に少年剣道に熱が入ってきました。

やがて、深谷台小学校が施設開放校となり、当会も地域活動の実績を認められて、昭和52年7月2日から念願の深谷台小学校に道場を移しました。体育館の二階では、菅谷師範が初心者をつとめ、そして三階では、私が中心となって経験者の指導を担当しました。菅谷師範の指導は厳しいので、見学の母親も子供と一語に涙を流すこともありました。経験者の指導は、大正剣道同好会同様に、そのほとんどが私に任されていたので、4人の助教は、子供達と共に汗びっしょりになっていました。

道場を移してからは、ママさん達（増子、北林、奥山、杉山）が入会、少し遅れ

て岡本克博，日比野光久両氏も入会されたことで，会員指導や行事が一段とやり易くなってきました。

それから10年，この間にいろいろな事がありました。例えば，謝礼支払方法のこと，酒酔い指導のこと，指導者退会のこと，出稽古（多数）受入れのこと，稽古曜日変更のこと，指導者批判のこと，会員の二重登録のこと，退会勧告のこと，「あゆみ」提出のこと，おもしろのこと等々。

しかし，このような難しい諸問題を乗り越えることによって，その後の指導と運営に自信を持つことができましたし，会員，指導者及び後援会役員の努力のお陰で，会員が厳しさの中にも子供らしさと明るさをもてるようになったこと，各種大会や段級審査（特に初段合格者を31名も出している）でも成績が上がってきていること，さらには当会が全日本剣道連盟専門委員の中村伊三郎，森島健男両八段範士をお迎えして，創立記念大会を開催，御指導を受けられたこと等は，大きな成果だったと思います。

個人的にも，「私と剣道指導」及び「剣心とは何か」という2冊の本を自費発行できたことは，自分の剣道を著わすことで，諸先生，先輩から多くの指導を受ける機会を得て，以前にも増して自分の剣道に幅と厚みが加わったように思います。また，当会十周年記念事業の一環として，「戸塚区剣道連盟の歴史」等を執筆することができましたのも，私の忘れられない思い出として残ることでしょう。

新潟の高一で初めて竹刀を握ってから，主に職場の農林水産省剣友会が私の修業の場でありました。その他，指導者養成を目的とした日本武道館附属武道学園にも2年間学び，地域で少年を指導するようになり，剣道というものが私の人生を大きく広げてくれました。しかし，その剣道も年令的にも40歳となった現在では，仕事が一段と忙しくなっている中で，いつまで指導を続けられるか分かりませんが，後援会が私を必要とするうちは，「自分のもてる力を全て出す」ということをこれからも続けていきたい。

私が10年間，こうやってここまでやってこれたのも，多くの人達に恵まれたことと，家庭の協力があつたからだと感謝しております。

会員，指導者及び後援会役員の皆さんが，家族の協力を得て，お互いが支え合いながら一丸となって前進してきた結果が，今日のドリーム剣友会を築いたことを肝に銘じ，次の二十周年に向けて一層頑張ろうではありませんか。

また，皆さんがOBになられても，心の故郷としてのドリーム剣友会をいつまで

も忘れないで、いつでも、なつかしいその顔を見せて下さい。

今日、ここにドリーム剣友会創立十周年記念大会を迎えることができたことを、剣友会関係者の皆様と共に喜びたいと思います。



十周年記念によせて

ドリーム剣友会師範代

三段 日吉 陽一

ドリーム剣友会十周年おめでとうございます。私も当会発足以来、今日まで多くの方々とやってきましたが、ここにめでたく十周年を迎えることができましたことを深く感謝いたします。諸先生方の御協力、役員方の御協力、一人一人の力は小さくとも大勢の協力があれば大きな力になることを深く感じる次第です。

過去十年を振り返ってみて、よくぞここまでやってこれたなと思います。気の遠くなるような長い時間も過ぎてしまえば短く感じます。子供達の成長をみていると、まるで我が子を育てているかの思いにかられます。小学校低学年から剣道を始めて、一級、初段を取って高校生になり、当会を終業していく姿をみていると胸に熱いものを感じます。

三年、五年、十年と節目を通過点として更に十五年、二十年と大きく発展していくことを望みます。私自身、これからどれだけ続けていけるか分かりませんが、厳しく、楽しく剣道を続けていけることを望んでおります。これからも小さな力ですが、協力していきたいと思っています。

小さくとも剣道指導者、子供達に対して胸を張って教えていけるように、自分の生き方も反省しながら剣道を続けていきたいと思っています。子供達に胸を張って教えます。大きく、まっすぐ打てと、これしかないと信じつつ。つらく、苦しい稽古、しかし、これを乗り越えてこそ、道が開けるのだと思います。

当会では、年間行事がいろいろありますが、ハイキング等は家族の参加も呼びかけています。それは、一方通行になりがちな指導者対子供達、指導者対父母方とのふれあいも大事だと思うからです。単に剣道を教えるだけでなく、いろいろな行事を通じて心豊かな人間に育てて欲しいと思います。

当会の場合、お父さん方の会員が少なく、非常に残念に思います。少しでも都合して子供さんと一諸に貴重な汗を流して欲しいと思います。

私の五十年の人生の中で、剣道との出会い程素晴らしいものではありませんでした。剣道を通じて子供達とお父さん、お母さん方と共通の目的で汗を流し、話ができるなど、過去十年を振り返り自分自身がよく頑張ったと、又、私自身が中年から始めて今日まで来たことが、後から始めたお父さん、お母さん方の少しでも道しるべになるべき、頑張りたいと思います。

月並みな言葉ですが、剣道界の発展を祈りながら、これからも頑張っていきたいと思います。

戦災にあわなかつた防具・母の情



ドリーム剣友会助教
錬士五段 加瀬 準

春風がまだ冷たい夕方、防具をかついだ少年に出合ったので「どこで練習するの」と尋ねたら「この学校の体育館」といって深谷台小学校を指さした。ドリーム剣道同好会と私の出会いであった。それ以来早や八年になる。この間、寒河江会長は勿論師範の小島先生、日吉先生を始め多くのお母さん方に、高令者の私を温かく迎えて練習させていただき心から感謝している次第です。さて、八年間少年達に何を教えてきたかを省みると、全く自分の健康のために練習してきただけで、その力量の無さを悔むばかりです。

私が剣道を始めたのは、戦前の中学校の時である。当時柔道と剣道とは正課になっていて、どちらか一つを選んで勉強するような規則になっていたので剣道を選んだに過ぎない。剣道をやったおかげで虚弱体質の上に内気な私は、成長と共に背丈も伸び健康にもなった。

召集をうけ中国大陸で従事しているうちに太平洋戦争に突入し、国内の大都市は米軍の激しい空襲を受けた。母は「準は生きて帰ってくるかどうか判らないが、剣道が好きだったから」といって防具を他の重要な荷物と一緒に平塚在の知人の家に預けた。横浜は空襲を受け家財は焼失したが、疎開しておいた防具は幸い助かった。

防具がなかったら、私は剣道をやめてしまっていたかも知れない。防具を残してくれた母親に感謝している。

軍隊から帰って金沢高校の教師になった。終戦後、米軍は日本人が剣道をやめることを固く禁止した。スポーツとしての剣道ならということでようやく許可が出た。昭和28年文部省は、剣道を学校のクラブ活動として実施するのは宜しいとした。さて、生徒を指導するのに、私は余りに長い間練習を休んだ上に新しい剣道を知る必要もあった。そこで、二年間金沢の高野道場に学校の帰りに通って練習した。金沢高校在職中は、良い生徒に恵まれ、剣道部員の活躍はすばらしく全国大会に二回、関東大会には数回出場した。従って、私の教え方はまんざら下手ではないなと自負している。その後、職場も変り管理的な仕事に就いたために、思うように練習ができなくなったが、暑中休暇などには竹刀を握るように努めてきた。

退職してからは、ドリーム剣友会の皆さんと楽しく練習をしているが、家を出る時、常につきのようなことを考え、また練習もしている。今日は特に面打ちを多くやろう、または、すり上げわざを研究しようと心に決めてくる。しかし、特に、59年春の大雪で体調を崩してから無理が出来ないという意識が働いて、守りのわざばかりになっている。

ドリーム剣友会が今日の発展を見るに至ったのは、教える先生方の努力は勿論ですが、会長を始めとして増子・北林さんら多くの役員のお母さん方の絶大なる後援とその努力の賜である。これには衷心からお慶び申上げると共に皆様の厚情に重ねて感謝いたします。

皆様に招かれて参加した眺めの良い材木座の光明寺の合宿から、湖面に富士を写した山中湖畔、また秀峰八ヶ岳山麓の野辺山高原の合宿と移りましたが、合宿のその楽しさは、終生忘れることのない良い思い出となっています。

さて、剣友会に参加した少年諸君!! 剣道ばかりでなく学習の場においても、三本勝負をやったあの充実した気分を発揮して勉強にも励んで下さい。と同時に竹を割ったような、素直なしかも心温かな青年になってほしいと切に願ってやみません。

創立 10 周年記念に寄せて



ドリーム剣友会助教

四段 日比野 光 久

早いもので当剣友会も同好会として発足以来10周年を記念するに至り、基幹を成して来られた方々には、ただ御苦勞様でしたと感謝の意を表する次第です。

不規則な仕事故、指導する立場にある私自身としては、心苦しく思っている昨今ですが、記念誌を発行されるとのことですので、剣友会の諸君に少しでも参考になればと思い、自分なりに剣道について考える点を少々述べてみたいと思います。

1. 竹刀、防具を大切に。

私が剣道を始めたのは15才の時、巨人—長島誕生の頃で仲間は皆、野球、野球の時代でした。

剣道部の防具は殆んど竹胴、ましてや新人には旧軍で使われた銃剣術の防具が与えられた。胴と垂が一緒になっている代物です。

それも、入部後、素振りと掃除、先輩の剣道具の洗濯ばかりの毎日から半年して着用することを許されたと記憶している。だから防具を身につけられた喜びは、3年生になってつけられた黒胴より強く印象に残っている。

又、剝げた黒胴にはペンキを塗ったり、切れかかった垂は糸で補修して使った。

竹刀とて同様で、今みたいに2本も3本も持ってなかったからよく修理して使った。試合に行って竹刀がこわれたら仲間から借用するしかなかったので、お小遣いを溜めて買った竹刀を真心込めて手入れをし、ヤスリやサンドペーパーでささくれを直しロウや油を付けたりして長持ちさせたりしたものです。今の剣友会の諸君を見ていると、ささくれた竹刀でも余り手入れせず、川久保防具店さんには悪いが、すぐ修理に出す人が多いのは残念に思っている。竹刀は消耗品とはいえ、剣道をする人にとっては「魂」であることを認識して欲しいと思っています。

2. 企業の中での剣道精神

剣友会の諸君には21世紀の世界での活躍の場が待っています。今は勉強、塾、剣道や他のスポーツ等で毎日が過ぎ、将来のことなどあまり考えていないと思います。中には親の意志でいやいや剣道に来ている人もいるでしょう。私はそのいやいや剣道に来ている人に特に申し上げたい。剣道をやってきたことがいかに社会に出ても

役に立っているかを……。

私のいる今の航空界は、ある意味で安定してきたと言えますが、私の入った頃は正に戦国時代で、いろいろな人が群雄割拠としており、仕事、人間関係においても何度となく挫折感に陥った経験があります。そのような時に、自分を奮い立たせてくれたのは剣道で培った精神であり、脳裏に残る学生時代の厳しい剣道そのものであったからです。

先般、米国の雑誌「TIME」にも日本の猛烈なビジネスマン精神についての記事が掲載されていきました。一緒に宮本武蔵の自画像も紹介されており、興味をひかされた。

題して「サムライービジネスマン」私はこの言葉、題名が気に入って、その言葉の持つ意味を自己流に解釈し、実践して仕事をしています。

むずかしい話になり、ましてや下級生には何のことやら判らないと思いますが、剣道も勉強と同様に一生懸命に続ければ、大人になって社会に出た時に大変役に立つということを知ってもらいたいと思うのです。

3. 親子のスキンシップ

最近、剣道を通じて我家に共通の話題が一つ増え、楽しい一時を過ごすことができるようになった。

仕事が忙しく、仲々親子で語り合う機会もなく、父親失格と思っていたところ、2年前から息子が剣道を始めたため、共通の話題を持てるようになったからです。

それでも月に2～3回あるかないかの語らいですが、剣道の練習の後、一緒に風呂に入り息子に背中を流させながら剣道の話をする。この時ばかりは真剣に聞いてくれるから話にも力が入る。これぞ親子のスキンシップではないか？と真面目に思う昨今でもあります。以上雑感になってしまいましたが、剣道は一生続けるつもりですし、ドリームの練習にも出来るだけ参加したいと思っていますので、今後も親子共々よろしくお願いします。

剣友会とともに



ドリーム剣友会後援会副会長

北 林 トミ子

県ハイツ集会所で剣道を始めるという募集に小学二年生の一人息子に話しかけました。「剣道をやってみる?」と。「うん、カッコいいもんね、英ちゃんもやるんでしょ?」子供はカッコ良さで友達にひかれ、親は元気にたくましく、礼儀正しい子に育ててほしいと期待をかけ入部いたしました。それから狭い道場で週二回の稽古が始まりました。隣りの子とぶつかり合い、思いっきり木刀を振ることも出来ません。三ヶ月が過ぎ小学校の体育館に道場を移すと聞いた時は本当に嬉しく「これで子供達ものびのびやれる」とホッとしたものです。道場も広くなり見学していた私達母親に師範より「どうですか美容体操のつもりでやってみませんか?」「そうですねえ」と軽い気持ちで剣道を始めたものです。雨の日も、風の日も、凍てつく日も、防具を見ただけで汗が流れ出そうな真夏日も、子供達は親に叱咤激励され道場に通って来ます。先生方もそういう子供達のために家庭のことはさて置き、急ぎ足で来て下さり、気合いの入った指導をしておられる姿には頭が下がります。しかし、稽古がきつくて逃げ出す子、剣道病(剣道に行く時間が近づくと頭痛、腹痛がする)にかかり、一人去り、そして又一人と……。それでも何くそ!!と歯をくいしばって頑張っている子、先生方の期待に応えるように皆んな一生懸命頑張っているのです。

新師範に小島先生が就任して間もなく「週二回のほか、初心者のみの稽古をふやしたいが日曜日に市ハイツ集会所を使えないだろうか」と言われた時にはびっくりしました。果して大丈夫なのかしら、場所はともかく、小さいお子さんが三人もおおり、大変な時期でもあるのに、家庭を犠牲にして一人でやっていけるのだろうか、今やるということは今年だけでなく、来年も、再来年も、半永久的に…。その熱心さに応え、管理組合にもお願して、今の初心者稽古が発足したのです。それから夏の合宿は子供達が楽しみにしている行事の一つです。最初は鎌倉の光明寺に始まり、山中湖、現在の野辺山と九回を数え、回を重ねるごとに慣れてきて、先生方も役員も子供達と一緒に楽しんでいます。一回目の光明寺での合宿は、鼻血、ぜん息、おねしょ、と先生方も一晩中眠られないような状態で、大事な子供達を預っているた

め本当に神経を使いました。又こんなにも体力がなく、弱いものかとびっくりしたのですが、一年毎に丈夫になり、鼻血を出す子もいなくなり、今ではバスに酔うくらいになりました。山道五キロのハイキングマラソンも一年生から全員完走できるようになり頼もしい限りです。

それから春、秋のハイキング、部内試合（四季大会）等々行事を一つ一つ消化していると一年はあっという間で、過去を振り返り反省することも出来ずに今日まで突進してきてしまいました。この十年の自分を見つめてみますと、稽古をやりながら役員もやるというのは、家事との時間調整が難しく苦勞いたしました。でもそのうちに稽古もすっかり生活の一部となってしまう、稽古のない日はもの足りなさを感じる程になりました。そして昇段もしたいという意欲も出てきて、時間を見つけては出稽古に行き、いろんな道場の先生方にもお世話になりました。三段に挑戦した時にはなかなか受からず、一回目は悔しいけど実力がなかったものとあきらめもしたんですが、二回、三回となると実力がないことも省りみず「もう受審するのはよそう。この歳になってこんなかなしい思いはしたくない。昇段するだけが剣道じゃないんだ」とあきらめていました。ところが先生方に「なぜ、受けないんですか？一生懸命稽古すれば必ず受かりますよ」とその気にさせられ、又々泥沼に足を踏み入れたみたいに稽古に励みました。そして59年9月にやっと三段に昇段出来た時の喜びは感無量でした。あきらめずに稽古していてよかったと思いました。それにしても先生方がひじ等の防具のないところを打たれながらも教えて下さったから、こんな無器用な私でも三段になれたのだと感謝しております。そして、いまではこりもせず四段に挑戦したいと頑張っているのです。

後援会の皆さんも「役員としてお手伝い願えませんか？」と声をかけると「何もわかりませんが子供がお世話になっておりますのでお手伝いだけなら……」と心よく引受けて下さり、会の目的や運営をよく理解され、ご協力していただいているからこそ今のゆるぎないドリーム剣友会になったのだと思います。

先生方、役員、父母、子供達との和を大切にして、これからもドリーム剣友会が発展されることを願っております。